今月のソリューション事例

シマンテック

「Symantec Endpoint Protection」が富士通のクラウドサービスに採用

シマンテックは、デスクトップやサーバ向け統合セキュリティ製品「Symantec Endpoint Protection」が、富士通の提供するクラウドサービス「オンデマンド仮想システムサービス」に採用されたことを発表した。Symantec Endpoint Protectionは、今後日本国内、及び海外市場で富士通が顧客企業に提供するクラウドサービスにおいて、データセンター内におけるサーバレベルのセキュリティをさらに向上させる為に採用される。

クラウド・コンピューティングが益々進行する昨今では、企業内のエンド・ポイントのみならず、クラウドサービスを提供するデータセンターやサーバレベルでの安全性確保が必須となっている。Symantec Endpoint Protectionでは、ノートブックPC、デスクトップPC、及びサーバを守る比類なき防御機能を提供し、ウイルス対策、スパイウェア対策、ファイアウォール、侵入防止、デバイス制御、アプリケーション実行制御等複数のセキュリティ技術を1つのエージェントにシームレスに統合、1つの管理コンソールによる一元的な管理が可能である。

シマンテックはこれらのサーバ搭載製品に関し、24時間365日対応の保守サービスを提供するほか、必要な技術支援を行う予定である。

今回のSymantec製品採用に関し、富士通のクラウドビジネスサポート本部長の岡田昭広氏は以下のように述べている。「弊社は、2010年2月に発表したシマンテック社とのグローバルな戦略的パートナーシップに基づき、Symantec Endpoint Protectionを弊社のクラウドサービスにグローバル規模で採用し、提供していきます。これは、トラステッドなクラウドを全世界で迅速に拡大していくという弊社の方向性に沿った展開となっています。今後ますます重要となるクラウドのセキュリティ分野において、シマンテック社とさまざまな協業体制を模索していきたいと思います。」

シマンテック
TEL：03-5114-4400

IIJ

みずほ証券にASP型FXシステム「IIJ Raptorサービス」を提供

インターネットイニシアティブ（IIJ）は、みずほ証券が、2011年1月上旬より提供開始した「みずほFX」のシステム基盤として、ASP型で外国為替証拠取引システムを提供する「IIJ Raptorサービス」を提供する。

IIJ Raptorサービスは、一つのプラットフォームで「くりっく365」、「大証FX」、「OTC」の3市場に対応したIIJ独自開発のFX取引システムを提供する柔軟性の高いASP型サービスであり、以下の特長を持つ。

①ハイブリッドメモリデータベースを採用し、取引における各処理を同時並行で処理することにより、毎秒1,000件以上の約定処理を実現できる。

②従来のシステムでは一分程度の値洗い処理を一秒程度まで短縮することができる。

③利用者が直感的に取引操作できるWEB、モバイル、注文取引に特化したリッチクライアント（クライアントソフトウェア）を提供する。各取引チャネルは事業者ごとにカスタマイズ可能な上、シンプルなメニュー構成と簡単な操作ステップで、初心者から上級者まであらゆるレベルの利用者が容易に利用することが可能。

④Ajaxを採用することで、動的に画面内のレイアウトやデータが更新されるため、利用者がストレスなく迅速に取引を行うことができる。

みずほ証券では、くりっく365を提供するFXサービスを新たに開始する予定であり、新サービスの提供にあたっては、IIJ Raptorサービスのシステムの高速性や取引チャネルの豊富さ、顧客満足度の向上が期待できる先進的なユーザーインターフェイスや独自機能に加え、IIJバックボーンを活かしたシステムの安定性などを高く評価し、今回の採用にいたった。

IIJインフォメーションセンター
Tel：03-5205-4466